2013年10月　第27号

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

病 院 の 理 念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

「肝胆膵チーム制」を導入してみて

市立室蘭総合病院　医局長（消化器内科部長･内視鏡室長）
金戸（かねと）　宏行（ひろゆき）

以前より当科で入院患者さんを診療する際には主治医制がとられてきました。一方外科系の科ではチーム制がとられています。チーム制のメリットとして、一人の患者さんの病態や治療方針がその科の共通認識として得られることで、個々の医師の力量の差が医療の質に影響を及ぼす可能性が少なくなることが挙げられます。昨今、各学会よりガイドラインが制定され、治療の均一化（どこの地域でもどこの病院でも治療は同じことを行う）を目指す動きがあります。さらに、治療だけではなく、より良い医療の提供には複数の医師、看護師、薬剤師、ケースワーカーなど多職種チームによる診療を目指すことが望まれています。

一般に消化器の臓器は大きく管腔臓器（食べ物の通り道である食道・胃・十二指腸・小腸・大腸など）と実質臓器（肝臓，胆嚢，膵臓など）にわけられます。消化器内科医もより専門領域が細分化してきており、小生は実質臓器をより専門として診療をしてきました。そこで当科では今年の春より前述した背景も踏まえ、肝胆膵疾患で入院する患者さんを肝胆膵チーム（小生と4名の若手の医師で）で診療する「肝胆膵チーム制」を導入しています。具体的には患者さんが入院したら、当日入院カンファレンスを行い、担当医を決めて治療方針を相談します。週1回は看護師、薬剤師なども含めて総合カンファレンスを行い、治療方針の確認、各種問題点などを抽出し、それに対する対処方法を相談します。特殊な検査も可能な限りチームの医師皆で行うようにしています。多くの目で患者さんを診て多くの意見を交わすことで、より良い医療を提供できるものと考えています。まだまだ始めたばかりの試みで患者さんの中には主治医制でないことに戸惑いを感じられる方もいらっしゃるかとは思いますが、より質の高い医療の提供を目指した取り組みですので、ご理解いただければ幸いです。

10月1日より

呼吸器外科 診療開始

呼吸器外科部長
髙橋　典之（たかはし　のりゆき）

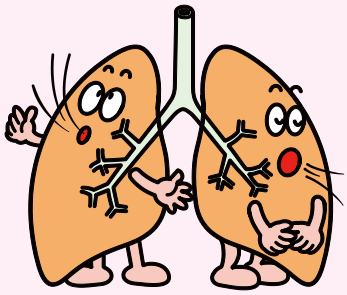
　このたび、呼吸器外科を新設し、10月1日より診療開始しています。
　呼吸器外科部長としてお迎えした髙橋典之先生は長く道立苫小牧病院で副院長として勤務され、当院では呼吸器外科外来および肺手術を担当されます。
　西胆振地区初めての呼吸器外科開設となります。お気軽に受診下さい。

≪診療日≫

　毎週月曜日・水曜日・金曜日
　（午前中）

≪診療場所≫

　1階心臓血管外科外来と同じ場所
　（外科待合室奥）



≪診療内容≫

　呼吸器外科の主たる診療内容は胸部に関する外科治療一般です。全世界的に増加傾向にある肺癌、若年者から高齢者に見られる自然気胸、切除以外に確定診断が難しい縦隔腫瘍、肺結核や非結核性抗酸菌症(NTM)など感染症の外科切除、気管・気管支腫瘍、および胸部外傷など診療内容は多彩です。

≪治療法≫

　ほとんどの肺手術では低侵襲を目的とした胸腔鏡を用いた手術を行っております。また、出来る限り他人の血液による輸血を回避する目的で、自己血輸血を積極的に行っています。

≪対象≫

　慢性肺気腫や肺線維症に合併する悪性腫瘍に対する外科切除についても、術前の呼吸機能検査で予測できる術後呼吸機能より、術後の合併症を回避する術式を検討します。

シリーズ 健康講座

第22回

《精 神 科》

「精神科での治療について」

精神科科長　三上敦大（みかみのぶひろ）

ここ数年、精神科医療への「敷居」が低くなったように感じます。精神科受診に抵抗がある方がまだまだ多いのも事実ですが、新型うつ病、適応障害、発達障害、認知症などの言葉がマスコミに取り上げられることが多くなり、身近な問題であると感じられる方が増えてきているのだと思います。しかし、その治療に関してはまだまだ誤解されている部分もあるのではないでしょうか。

精神疾患治療の重要な柱として「薬物療法」があります。目に見えぬ「心」「精神」が薬の力でどうにかなるものか、と思われる方もいらっしゃると思いますが、不眠だけでなく、抑うつ気分、不安・緊張、また幻覚妄想など様々な精神症状が、薬による治療で軽快します。

しかし、症状を良くするために必要なのは薬物療法だけではありません。精神科医師の診察により行われる精神療法はもちろんのこと、患者さんご本人に生活の仕方を工夫していただく必要があることもありますし、職場や家庭の環境を調整する必要があることもあります。認知症の方については関わる方々によるケアも重要な鍵を握ります。その他たくさんの要素があります。

そして大切なのは、これらの治療に必要な要素は「どれか1つさえあればいい」というものではなく、組み合わせる必要があるということ。そして更に言うと「その人その人によって、何が特に重要かが異なる」ということです。

例えば、仕事によるストレスが原因で調子を崩している方にいくら薬だけ投与していても改善は見込めず、その方の能力や適性を把握したうえで仕事量や内容を調整する必要があるでしょう。不眠が続いている方には、生活の中に不眠を増悪させる要素があれば修正していただく必要があります。一方、内因性疾患と呼ばれる疾患、とくに統合失調症の場合には薬物療法は不可欠であり、「気の持ちよう」「心を鍛えれば問題ない」などと言って薬物療法を疎かにすると病状は悪化してしまいます。

一人ひとりの患者さんに対しどういう治療、どういう関わりが必要なのかを吟味し、その方の症状が改善してより安定した生活が送れるようになるお手伝いをするのが、精神科医療の役割だと考えます。決して人を「薬漬け」にするものではありませんし、また呪術のようなものを用いることもなければ、精神修行を施す場所でもありません。そしてそもそも治療の必要がないと思われる場合にはきちんとその旨をお伝えしますし、不要な処置をすることはありません。

気になることがあればご相談ください。

リハビリテーション科より No.1

リハビリテーションセンターで働くスタッフ

リハビリテーション科のスタッフ数は理学療法士（16名）、作業療法士（10名）、言語聴覚士（4名）、事務員（2名）の32名です。この数は全道の市立病院の中でも多く、手厚いリハビリテーションを提供しています。患者さんの内訳は脳外科が一番多く（100名程度）、次いで整形外科（40名程度）、その他は外科、循環器内科、呼吸器内科、精神科等合わせて50名ほど診療しています。精神科患者さんは他にデイケア療法を行っています。外来リハビリテーションも行っています。

理学療法は脳外科専門チーム、運動器疾患専門チーム、内部疾患専門チームに分かれて質の高いリハビリを提供できるようになっています。作業療法は脳外科主体に診療していますが、整形外科術後の手のスプリントも作製しています。言語療法は言語障害の治療はもちろんのこと、ベッドサイドにて嚥下訓練・摂食訓練もおこなっています。発症してから可及的早期にリハビリを開始し、廃用症候群（動かさないことにより筋肉が萎縮したり、関節が固まったりすることなど）の予防に努めています。手術前の術前リハビリも行っており術後のリハビリの練習等を指導しています。精神科の患者さんのカラオケなどの集団療法もおこなっています。

デイケア担当スタッフ（作業療法士）

今年10月から祝日リハビリを開始しています。全患者さんへのリハビリテーションの提供とはなりませんが、6名程度のスタッフが出勤し、ベッドサイドのリハビリテーションを実施いたします。これにより更なる廃用症候群の予防効果が期待でき、患者さんの回復が早くなると考えています。

320列CT稼働開始

10月1日よりCT（コンピューター断層撮影装置）を導入し、稼働開始しました。

320列CTは最新鋭の装置で、西胆振地区での導入は初となります。

この装置は当院の主力CT装置であった64列CT装置の5倍の幅をもつ320列面検出器を搭載しております。従来のCT装置では、1臓器をスキャンするために寝台を移動させながら検出器を数回転以上回転する（ヘリカルスキャン）必要がありました。しかし、本装置では検出器幅が160mmあるため、撮影範囲160mm以下である脳や心臓などの臓器などでは、1回転（0.275秒）で全範囲を撮影することが可能です。心臓のような動く臓器でもズレの無い鮮明な画像を得ることができ、3Dボリュームデータは広範囲をタイムラグなしに撮影したもので、これを時系列に並べた動的解析により臓器全体の機能診断が可能となりました。この応用範囲も胸腹部領域や整形外科分野に広がっていくと期待されています。

また、撮影時間の短縮や、特定部位の検査については造影剤の使用量を減らせることができ、被ばく線量も心臓検査でおよそ4分の1に抑えられるため、患者さんのストレスや負担が軽減されます。

「復職支援セミナー」開催のご案内

市立室蘭総合病院はあなたの職場復帰を応援しています!!

室蘭市近隣にお住まいの看護師のみなさん、「資格を持っているけど、ブランクがあってなかなか復職できない・・・」と悩んでおられませんか?

当院では看護師資格を持ちながら医療現場から離れてしまった『潜在看護師』の方を対象にセミナーを開催します。

最近の医療や看護の動向とシミュレーターの人形を使って基本的な看護技術演習を行います。また、急性期病院の雰囲気を感じていただくための病院内見学も可能です。

開催日時：平成25年11月27日（水）13時～15時
　　11月28日（木）13時～16時

開催場所：病院講堂1

対 象 者：看護師・准看護師の有資格者で、現在看護の現場を離れている方

研修内容：講義と演習
①医療・看護の動向
②感染予防対策
③医療安全対策
④救急蘇生（BLS）
⑤技術指導（採血、注射、吸引）

申込方法：市立室蘭総合病院　看護局　担当　熊谷までご連絡ください。
ホームページからメールで、またはFAXでの申し込みも可能です。

申込締切：平成25年11月15日（金）
※お子さま連れで研修に参加される場合は、保育所利用が可能です。

連 絡 先：市立室蘭総合病院　看護局
担当：熊谷　広美
TEL.0143-25-3111
（平日9時～17時）

新任医師のご紹介

10月に着任しました。

呼吸器内科医長
浅井（あさい）　悠一郎（ゆういちろう）　医師

患者・家族の皆様の権利とお願い

医療は、患者の皆様と医療従事者との相互の信頼と協力とによって実践されます。　両者は、単なる契約関係やパターナリズム（親権主義）にあるのではなく，お互いの信頼感に支えられている「良いパートナーの関係」にあることが最も望ましいと考えております。　この考えのもとに市立室蘭総合病院は、患者の皆様の権利と意思とを尊重して、患者・家族の皆様も一緒に治療に参加できるような最善の医療の提供に努めております。

患者の皆様の権利と責務

皆様の権利

1．ご自身にとっての最善の医療を受けることができます。
2．ご自身の病気の診断・病状・治療方針などについて、分かりやすい言葉や方法での納得できる説明と的確な情報を受けることができます。
3．ご自身（あるいは家族）の意思で治療方法が選択し決定できますし、また他の病院の意見を求めることも、臨床研究中の新しい治療に関する情報の提供を受け、これに参加することもできます。
4．ご自身のプライバシーが守られ、診療明細書の提示や自身の診療記録の開示を求めることも、また知りたくない情報を拒否することもできます。

皆様の責務

5．ご自身の人格・人生観・価値観・宗教観・趣味趣向などは尊重されますが、診療・治療上の必要な指示や助言はお守りください。
6．通院・入院中は院内規則を守り、迷惑行為を慎んでください。
7．受けた医療に対しての医療費（自己負担分）は必ずお支払ください。（責務を守って頂けない場合は、当院での医療提供が継続できないこともあります。）

市立室蘭総合病院　広報委員会
〒051-8512
室蘭市山手町3丁目8番1号
事務局総務課
TEL（0143）25-3111 FAX（0143）22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/